第３回

朝霞市総合計画審議会議事録

令和６年３月２６日

政策企画課

様式第３号（第１３条関係）

会議録

会議の名称	第３回　朝霞市総合計画審議会
開催日時	令和６年３月２６日（火） 午前１０時００分から午後０時１８分まで
開催場所	朝霞市役所別館２階　全員協議会室
出席者及び欠席者の職・氏名	別紙のとおり
議題	（１）第２回総合計画審議会の議事のまとめ （２）基礎調査の結果について（報告） （３）市民意識調査等の結果について（報告） （４）市民ワークショップの意見について（報告） （５）将来人口推計について （６）朝霞市が目指すべき方向性について
会議資料	・会議次第 ・資料１　　第２回総合計画審議会の議事のまとめ ・資料２－１　基礎調査報告（案） ・資料２－２　基礎調査資料への指摘事項及び対応 ・資料３－１　朝霞市民意識調査及び青少年アンケート結果報告書（速報版） ・資料３－２　朝霞市子育て・定住に関する意識調査結果報告書（速報版） ・資料３－３　朝霞市転入・転出意識調査結果報告書（速報版） ・資料３－４　小中学生の意見聴取に関する報告書（速報版） ・資料４　　市民ワークショップ結果報告書（速報版） ・資料５　　人口推計検討資料 ・資料６―１　朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】調査結果の概要 ・資料６－２　朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】本市の強み・弱みとキーワード
会議録の作成方針	■電磁的記録から文書に書き起こした全文記録
	□電磁的記録から文書に書き起こした要点記録
	□要点記録
	□電磁的記録での保管（保存年限　　年）
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間：■会議録の確認後消去 □会議録の確認後　か月
	会議録の確認方法　委員全員による確認
傍聴者の数	なし
その他の必要事項	

出席委員（１８人）

会長	知識経験者	中村年春
副会長	関係団体	松尾哲
委員	市議会議員	飯倉一樹
委員	市議会議員	陶山憲雅
委員	市議会議員	田辺淳
委員	農業委員会	秋山磨弥
委員	教育委員会	平木倫子
委員	関係団体	加藤弘樹
委員	関係団体	高橋甚次
委員	関係団体	渡辺淳史
委員	関係団体	渡邉俊夫
委員	知識経験者	原田晃樹
委員	知識経験者	星野敦子
委員	知識経験者	村上文洋
委員	公募市民	淺田陽子
委員	公募市民	一宮光夫
委員	公募市民	酒井正弘
委員	公募市民	髙橋満

欠席委員（２人）

委員	知識経験者	内田奈芳美
委員	公募市民	原田佐登美

事務局（７人）

事務局	市長公室長	稲葉竜哉
事務局	政策企画課長	櫻井正樹
事務局	同課主幹	齋藤欣延
事務局	同課政策企画係長	福田幸世
事務局	同課同係主任	山本良太
事務局	同課同係主事	伊藤舞香
事務局	まちづくり推進課都市計画係長	濵野孝雄

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
◎１　開会 〇事務局（齋藤主幹） 　それでは、定刻となりましたので、第３回朝霞市総合計画審議会を開会します。 　なお、本日、内田委員、原田佐登美委員から欠席の連絡をいただいています。 　はじめに資料の確認をいたします。 　本日の会議では、事前にお配りした、 　・資料１　　第２回総合計画審議会の議事のまとめ 　・資料２－１　基礎調査報告（案） 　・資料２－２　基礎調査資料への指摘事項及び対応 　・資料３－１　朝霞市民意識調査及び青少年アンケート結果報告書（速報版） 　・資料３－２　朝霞市子育て・定住に関する意識調査報告書（速報版） 　・資料３－３　朝霞市転入・転出意識調査結果報告書（速報版） 　・資料３－４　小中学生の意見聴取に関する報告書（速報版） 　・資料４　　市民ワークショップ結果報告書（速報版） 　・資料５　　人口推計検討資料 　・資料６―１　朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】調査結果の概要 　・資料６－２　朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】本市の強み・弱みとキーワード 　以上の資料を使用いたします。全ておそろいでしょうか。 　また、本日の説明では使用しませんが、今後予定する、総合計画の策定の流れを表にまとめたものを机上に配布していますので、参考にしていただければと存じます。 　次に、１点報告がございます。 　昨年１２月の朝霞市議会議員の改選に伴い、これまで御参加いただいていた、 　・利根川　仁志　委員・福川　鷹子　委員・山口　公悦　委員が退任され、新たに 　・飯倉　一樹　委員・陶山　憲雅　委員・田辺　淳　委員が就任されました。 　それでは、飯倉委員、陶山委員、田辺委員に、御挨拶をいただきたいと思います。 （飯倉委員、陶山委員、田辺委員の順に挨拶をいただいた。） 〇事務局（齋藤主幹） 　ありがとうございました。なお、新しい委員名簿は机上にお配りしています。 　また、本日、都市計画マスタープランを所管するまちづくり推進課の職員も同席しています。 　最後に、会議開催に当たり、１点、お願いがございます。 　会議録を作成する都合上、発言されるときは、まず挙手をしていただき、会長に指名をされてから、御発言くださいますようお願いします。 　それでは、以後の会議の議事は中村会長に進行していただきます。 　中村会長よろしくお願いします。 〇中村会長 　皆様、おはようございます。本日も、早い時間から御参集いただき、まことにありがとうございます。 　本審議会は、本日が第３回目の会議となります。これから本格的な検討に入っていくことになりますので、委員の皆様からできるだけたくさんの御意見を頂戴したいと思っています。 　本日、机上に第６次総合計画の策定、答申までの流れ（予定）を記した用紙が配布されています。これを拝見すると、今後はほぼ月１回程度のペースで皆様にお集まりいただくことになりそうです。皆様には公私共に大変お忙しい中、日程の調整も厳しいかと思いますが、第６次朝霞市総合計画の策定に、これからも可能な限り御協力いただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。 　まず議題の審議に入る前に、本審議会は、市政の情報提供及び審議会等の会議開催・公開に関する指針に基づき、原則公開と決定しています。そこで、傍聴要領に基づき傍聴を許いたし

ます。なお現在のところ、傍聴希望者はいないということですが、会議の途中で傍聴希望者が出てきたときには入室を許可しますので、あらかじめ御了承ください
　それでは、次第に沿って議事を進行していきます。

◎２　議事
（１）第２回総合計画審議会の議事のまとめ
○中村会長
　議事１では、「第２回総合計画審議会の議事のまとめ」を確認いたします。まず事務局から、説明をお願いします。
○事務局（福田係長）
　議事の説明に入る前に、本日の会議では、議事５「将来人口推計について」と議事６「朝霞市が目指すべき方向性について」の議論に多くの時間を割きたいと考えています。そこで、資料１～４の御報告については、概要や主な内容についての説明とさせていただくことを御了承ください。資料５、資料６について議論の時間を十分設けたいと考えています。
　それでは、「第２回総合計画審議会の議事のまとめ」について、資料１をもとに説明します。
　（１）第２回審議会においては、２つの議題について御意見をいただきました。
　①市民意識調査、青少年アンケートの調査項目について、御意見を伺いました。
　主な御意見としては、
　・調査の表紙にこの調査が市民の皆さんの暮らしにどう役立つかを記載してはどうか。
　・スマートフォンで回答しやすいよう配慮が必要ではないか
　などのほか、個別の調査項目についてたくさんの御意見をいただきました。
　②基礎調査の取りまとめ状況について事務局から報告を行い、御意見をいただきました。
　主な御意見としては、
　・都市比較のチャート図について、外に向かうほど良い指標となるよう統一した方がよい
　という意見をいただきました。
　なお、その他の意見と対応については、資料２－２にまとめていますので、次の議事（２）で改めて御説明します。
　裏面に、（２）として審議会後の状況を掲載しています。
　第６次総合計画の策定に向けて、まちづくりに対する市民の意見を聴取し、基礎資料として活用していくため、①から⑤まで、様々な方を対象として意識調査等を行ったほか、⑥の市民ワークショップ、⑦の分野別市民懇談会を実施しました。
　詳細については、この後の議事の中で報告いたします。
　説明は以上です。
○中村会長
　福田係長、御説明ありがとうございました。
　やや概略的な説明であったと思いますので、これから皆様からいただく御意見等を参考に、加筆修正を行って整理をしたいと考えています。ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様から御意見をお願いします。
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　主な意見が掲載されていますが、意見の対応状況はどうなっていますか。
○中村会長
　飯倉委員、ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　資料１の（１）の①については、いただいた意見等を反映し、既に裏面に記載している意識調査等を実施しています。
　また②についても、基礎調査の取りまとめ状況ということで、議事の２で示していますが、資料２-２にまとめた内容を資料に盛り込んでいるということで、御理解をいただきたいと思います。

また、裏面の（２）の審議会後の状況等については、こちらも各議事の中で詳細を説明しますが、こちらにつきましてはいただいた意見等を今後、基本構想、また前期基本計画等に幅広く利用するとともに、総合計画としてアンケートを行いましたが、個別の計画等の所管課と全庁的に共有し、活用していきたいと考えています。以上です。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

他に、どなたか御意見のある方はおいでになりませんか。田辺委員、お願いします。

○田辺委員

一点だけ確認します。今、都市計画審議会で都市計画マスタープランの策定にも入っています。総合計画と都市計画マスタープランとで連携できる部分、できない部分があると思いますが、かなり重なるところもあったと思います。その点に関する配慮はどういう形になりましたか。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○櫻井課長

資料１の裏面の意識調査等については、スタートの部分を合わせてそれぞれ調整するというのは難しかったのですが、情報等も共有し、都市計画マスタープランも先日、追加アンケートをしています。

また今後についても、都市計画審議会に総合計画審議会の担当部署の者が出席し、逆に本日のように総合計画審議会に都市計画審議会の担当部署の者が出席するなど、それぞれの審議会における審議の内容等を常に把握するとともに、今後市民の懇談会や、地域別の懇談会等を開催していきますので、そのような事項に関しても相互に連携を図りながら進めていくことを考えています。

本日、机上にＡ３の縦版で、スケジュール表を配布しています。それを御覧いただくと、第６次朝霞市総合計画の策定に関わる全体のスケジュール表には、連携のスケジュールについての記載はありませんが、表の一番下に※印で「都市計画マスタープランとの連携については、別途進めます。」と記載しているとおり、適宜連携しながら進めたいと考えています。以上です。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

転入転出者調査についてですが、拝見したところ、有効回答数が非常に少なく、これだと分析できないと思います。可能であるならば、常時アンケートを取ることができないかと思います。そうすれば年間の傾向も見られます。朝霞市の場合、社会増減がかなり人口に影響してきますので、常にこの調査をして状況を見るといいと思いました。以上です。

○中村会長

村上委員、御提案ありがとうございます。

事務局から、コメントをお願いできますか。

○事務局（櫻井課長）

転入転出意識調査については、この審議会の前に行った策定委員会でも同様の意見が出ました。そこで、年度当初は窓口が混み合いますので、その期間が終わった後に、追加で調査したいと考えています。その先も必要に応じて、今の御意見を参考に考えていきます。以上です。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

窓口が混んでいるときのデータも必要なので、市民にお配りする資料の中に１枚だけ紙を入れておいて、御帰宅後にスマートフォンから回答してくださいという案内でもいいと思いま

す。一定期間調査を実施していないという状態はなるべく避けた方がよいと思います。御検討いただければと思います。
○中村会長
　村上委員、ありがとうございます。調査に空白期間を設けない方がより実態に沿った状況が把握できるという御指摘だと思います。
　櫻井課長、お願いします。
○櫻井課長
　既に実施したアンケートですが、転入転出者にお配りする資料の中に、アンケートを入れた結果回答が少なかったので、４月には、職員を配置して、簡単に聞き取りでアンケートを取ろうと考えています。また、村上委員の御意見を参考に、どういった形で対応が可能か考えてみたいと思います。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。よろしくお願いします。
　陶山委員、お願いします。
○陶山委員
　一点伺いたいのですが、裏面の⑥市民ワークショップ、⑦分野別市民懇談会について、非常に参加者の人数が少ないように見受けられますので、こちらの周知をどのようにされたのかお伺いしたいです。
○中村会長
　陶山委員、ありがとうございます。
　事務局から、回答をお願いします。
○事務局（櫻井課長）
　詳細につきましては、議事４ほかで御説明しますが、市民ワークショップの事前周知については、ホームページや掲示板など、市全体のイベント等と同様の取組を行うとともに、各所管課から関係団体等にイベントを紹介して広報する、市内の大型商業施設等にポスターを貼らせていただくなど、幅広く募集活動を行いました。結果的には、当日の降雪という悪天候もありましたが、興味を持つ市民が少なかったということだと思います。今後、いろいろ実施していく中で、参加しない市民の意見をどのように拾っていくかというのは、これからの課題として検討したいと思います。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　裏面の①と②について伺います。回答率が市民意識調査３２．２％、青少年アンケート２７．１％ということで、似たような調査である③と⑤と比べると半分程度の回答率になっています。回答率が低くなった理由等について、この後の議事で御説明はあるのでしょうか。他の調査が５０％を超えていたにもかかわらず、市民意識調査と青少年アンケートが３割程度にとどまっているので、何か不足した点や課題等があれば、伺いたいです。
○中村会長
　飯倉委員、ありがとうございます。
　事務局から、回答をお願いします。
○事務局（櫻井課長）
　お答えします。①と②については、市民の方を無作為で抽出し、アンケート調査票を郵送して回答をいただくという方法で実施したので、やはり興味、関心の有無などが大きく影響していると思います。市が実施する全般的な調査等から考えると、回答率は概ね３割強というのが多いことから、①の市民意識調査については、平均には届いていると考えています。
　また③と⑤については、それぞれ調査対象者がもともと絞られていて、無作為抽出ではなく、子育て・定住についての調査では５歳児の保護者の方に限定してお願いしたこと、また、小中学生の聴き取りについては、ＧＩＧＡスクールの一環で児童生徒にタブレットを配布していますので、それを利用していただくということで、回答率が高かったのではないかと思いま

す。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　先日の一般質問でもお伺いして、⑤の状況についてはわかりました。③について、こども未来課が行ったアンケートについては、お礼兼督促のような、ぜひアンケートの回答をお願いしたいという葉書を出すということもしていたと思います。こういったアンケート調査をするときは、ただアンケートをお願いするだけではなく、後追いで回答をしてもらうようプッシュしていくと、ある程度回答率が上がると思います。①と②は無作為抽出だと思うのですが、例えば郵送等でアンケートをお送りしているのであれば、そういった対応はされたのでしょうか。
○中村会長
　事務局から、回答をお願いします。
○事務局（櫻井課長）
　当初、お礼兼督促を送るという考えもありました。しかし、これまでの市の計画において、それらを送ることによって、回答率が極端に上がったかと言えば、結果的には効果がみられなかったことなどから、今回は行っていません。以上です。
○中村会長
　飯倉委員、よろしいですか。
○飯倉委員
　わかりました。やはり、いろいろな調査をされている中でどれだけ回答率を上げていくかというのが、その精度を高めていくことにおいて重要なことだと思います。必要な回答率を確保するためには、できうる方策を、他の調査も踏まえて、反映していただければと思います。
○中村会長
　飯倉委員、櫻井課長、ありがとうございました。
　今後、この種の調査を実施するにあたっては、ただいまの出された御意見等を参考にして、精度の高い調査方法を用いて実施してください。
　それでは、議題１「第２回総合計画審議会の議事のまとめ」についてはこれで終わります。

（２）基礎調査の結果について（報告）
○中村会長
　次に、議題２「基礎調査の結果について（報告）」、御意見等を伺います。まず事務局から説明をお願いします。
○事務局（福田係長）
　それでは、議事２の基礎調査の結果について、資料２－１、資料２－２をもとに説明します。
　こちらは、前回の総合計画審議会や庁内の策定委員会での指摘を踏まえて修正を行い、また、前回は取りまとめ中であった「課題」を追加したものです。
　まず初めに、資料２－２を御覧ください。審議会等での指摘事項とその対応のまとめです。審議会でいただいた御意見について、資料の左端の連番の順で、いくつか御紹介します。
　まず、１６番の都市比較について、埼玉県の平均を追加しました。
　次に、１７番のレーダーチャートについて、外側に向かうほど望ましい姿となるよう、指標の表記を工夫しました。数値が小さい方が良いと一般的に理解される指標は「※」を付し、「１００マイナス偏差値」の数値を示すことにしました。
　それでは、資料２―１の基礎調査報告案について説明いたします。２ページの目次を御覧ください。
　この報告書の構成ですが、１として基礎調査の目的と内容、２として本市を取り巻く外部環境、３として近隣市等と比較した内部環境です。
　ここまでは、前回審議会でお示しし、いただいた御意見を踏まえ修正しています。
　最後に４として、市としての課題を５項目で整理しました。この４は、前回の審議会以降に

追加した箇所です。
　資料４ページの枠囲みを御覧ください。朝霞市を取り巻く外部環境について、①の人口減少と高齢化の進行から⑧のＤＸの進展まで、８項目について整理しています。
　前回からの変更点としては、内容のレベル感を勘案し並び替えを行い、また安全・安心という語句が広義の意味と狭義の意味で混在していたため、精査しました。
　次に、９ページを御覧ください。統計指標を用いて、近隣市等と比較した内部環境を整理しています。
　前回からの変更点としては、１１ページ、１２ページに統計用語解説を追加したこと、１５ページのように統計を補足する資料を追加したこと、また先ほど資料２－１でも触れましたが、１４ページのチャート図のように、数値が小さい方が好ましいと考えられる数値について、表現を見直したことなどです。
　資料の３１ページ、課題の整理を御覧ください。市の課題の整理を行っています。上段で、外部環境や内部環境を踏まえた課題を述べ、下段で、関連する時代潮流や統計資料などの課題の背景を示しています。
　課題の（１）として、人口増加傾向の可能な限りの維持とともに、いずれ訪れる人口減少局面に備えることを挙げています。
　現状において、本市の人口は増加しているものの鈍化傾向にあり、国や東京都の状況を見ても、いずれ本市の人口も減少に転じることが想定されるため、課題としています。
　次のページを御覧ください。（２）として、移住・定住の促進を挙げています。
　新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、様々な場面でオンライン化が進み、都市部から地方への企業や人の移転も見られる中、東京のベッドタウンとしてのあり方以外を模索することも必要と考えています。
　次のページを御覧ください。（３）として、子育て支援と教育の充実を挙げています。本市は若年層の有配偶率は比較的高いものの、合計特殊出生率は低下傾向にあり、２０２２年には、県の平均よりは高いものの、国の水準をわずかに下回っています。
　そのため、市民のニーズを踏まえながら、子育て支援、教育環境の両面からの取組が必要と考えています。
　次のページを御覧ください。（４）として、朝霞市での暮らしの魅力向上を挙げています。資料前段の都市比較を見ると、本市の市民は、比較的豊かで安全・安心な環境で暮らしていることが読み取れますが、ＱＯＬの重視を基本として、多様性を尊重し、社会的に孤立しない地域社会づくりを促すとともに、引き続き災害に強いまちづくりを推し進めていく必要があると考えています。
　次のページを御覧ください。（５）として、デジタルを活用した効率的・効果的な行政運営と、健全な財政運営を挙げています。
国のＤＸ推進を踏まえ、本市でも朝霞市行政情報デジタル化推進方針を策定しております。ＤＸの推進は行政の効率化だけでなく、地域課題の解決に繋げることも求められていることから、デジタルデバイドに配慮しながら、デジタルを活用した効率的な行政運営のあり方を引き続き検討していく必要があります。
　以上、５項目を市の課題として整理しています。
　委員の皆様には、特に今回追加した「市の課題」について、御意見をいただければと存じます。なお、資料中の誤字脱字等については、今後、資料の修正を行う際に、改めて見直し修正していきます。
〇中村会長
　福田係長、ありがとうございました。
　ただいま議題２で取り上げる基礎調査の結果について事務局から説明がありました。報告書のページ数にすれば、３０ページ強ですが、今後、本審議会において検討、議論していく上で重要な課題がここに入っています。
　委員の皆様からこれらについて御意見等を頂戴したいと思います。どなたか御意見のある方は、おいでになりませんか。
　酒井委員、お願いします。

○酒井委員
　課題という点では、結構大局的な観点から課題を捉えているので、そうかなと思いました。市民感覚でこの資料を見て、思ったことが３点あります。一点目が高齢化についてです。朝霞市は、高齢化率がまだ他市よりは低いという状況で、これから中期的な視点で高齢化対策を検討していく必要があるのかなと思います。高齢者になっても元気で活動できる健康寿命を延ばすような施策や、あるいは高齢者でも活躍できる社会貢献の場や機会を増やす施策の検討をしていただければいいと思います。
　二点目が、朝霞市は医療基盤が弱いということを私も課題認識しています。そういう中で高齢者が元気でという観点から、一点目と同じような内容になるのですが、歩きたくなるような朝霞の充実、歩道、あるいは公園、黒目川の整備という観点で、医療に頼らなくても元気というようなことも課題として挙げられると思います。
　それから、三点目が少子化対策です。２１ページに公園が少ないという分析結果が出ています。正直、市民の観点から言いますと、これ以上朝霞に公園を増やすということは非常に場所的にも厳しいのかなと思います。現状を維持しながら、特色のある公園というふうに質を変更していくことがポイントなのかなと感じたところです。以上です。
○中村会長
　酒井委員、御指摘ありがとうございました。
　事務局から、コメントはありますか。
○事務局（櫻井課長）
　ありがとうございます。酒井委員の御意見はまちの課題として挙げていただいていますので、個別の公園等については、これから先の前期基本計画の策定などにあたって参考としていきたいと思います。また、高齢化については、今課題１から５と挙げていますが、そこにもう１点を加えるなど、検討したいと思います。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　淺田委員、お願いします。
○淺田委員
　最近働く女性で、妊娠初期の方と話す機会があったのですが、男性と違って、自分は妊娠して出産する前後に仕事をどうしても休まなければならないことをすごく不安に思っていました。上司に相談したところ、男性の上司は親身になって応えてくれたけれども、労わるだけで、休むのが辛いということが伝わらなかったということでした。昔は専業主婦が多かったのですが、アンケートの結果を見ると、お母さんたちもほとんどが働いています。正職員として働いている方も多いということで、時代が変わってきたので、社会が妊娠している時期を支えることもすごく大事だと思いました。ここには男性の方が多いので、妊娠しているときの女性の気持ちは分かりづらいかもしれませんが、社会が変わったのであれば、社会が妊娠期を支えるような政策を展開していただけると、安心して若い世代が朝霞市に移ってきて、ここで子どもを産んで育てていこうという気持ちになるのではないかと思います。以上です。
○中村会長
　淺田委員、御意見ありがとうございます。
　星野委員、お願いします。
○星野委員
　淺田委員の方からも御意見がありましたが、３３ページの課題３です。
　子育て支援の更なる充実の後に、教育環境とあります。淺田委員がおっしゃったように、子育て支援については、妊娠前の段階から、不妊時の支援、もっと言うと、その前の出会いの段階からといった、途切れのない支援が今非常に求められていて、そのようなビジョンを打ち出している自治体が若い世代から大変支持を得ているという状況です。
　ここの記載では、子育て支援と教育環境とがそれぞれに離れてしまっています。さらには、教育環境のところでＩＣＴの最大限活用という記載があります。しかし今や、教育環境においてＩＣＴを活用するという次元ではなく、子育て支援、そして子どもたちの学びの環境全体を通して、ＤＸの視点というものを取り入れていただきたいです。技術的にタブレットなどを取

り入れるという時代は、第５次総合計画までで、第６次総合計画では次の段階に進むと思いますので、ぜひ途切れのない子育て支援、ＤＸの視点を取り入れた支援を、この中に盛り込んでいただきたいと思っています。以上です。
○中村会長
　星野委員、重要な御指摘ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　ありがとうございます。ただいま淺田委員、星野委員のお二人から御意見をいただきました。３３ページの中ほどに記載してある若年層の部分においても、結婚出産子育て期にある市民のニーズを踏まえながら、という文言は記してありますが、やはりタイトルは子育て支援と教育の充実に特化した項目となっています。お二人の委員の御意見を踏まえ、もう少し検討したいと思います。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。御検討をよろしくお願いします。
　村上委員、お願いします。
○村上委員
　今のお二人の委員の発言に関係することですが、この時代潮流について、朝霞市は、まだ人口が増えるので、人口減少に対する危機感が薄いと思います。周辺市町村や首都圏全体、日本全国を見ると、人口減少が急激に進んでいるので、ここに書かれているように、早晩、朝霞市も人口減少に陥ります。お二人からお話があったように、子育て支援は特に重要ですが、それ以外、例えば結婚するという選択をしたいけれどもできない人、結婚して子どもを作りたいけど共働きで難しい人、本当は子どもを増やしたいけどできない人など、ライフステージごとに抱えている課題があって、それに全部対応しないと、出生率は上がらないのです。全国平均並みの朝霞市の出生率は、かなり低いという危機意識を持たないといけません。まだ人口は横ばいだから大丈夫だろうと思っていると、いろいろな政策を先に打った周辺の都市に負けてしまうと思います。私は人口減少に関してはもっと危機感を持って、余裕のあるうちにいろいろな手を打つ、それをこの第６次総合計画の中で強く示していく必要があると思います。
　そのために、女性だけの会議で議論する、独身の男女で議論するなど、ここの年齢層よりも若い人の意見を聞かないといけないと思うので、そのような会議体の設置も検討されるとよいと思います。以上です。
○中村会長
　村上委員、御指摘、御提案ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　御意見ありがとうございます。人口減少についての考え方は、こちらの課題のところにもう少し書き込めるだろうと考えています。また後段で述べられた御意見については、これから前期基本計画の策定をまず考えていきますので、その中で所管課と、今日いただいた意見を共有しながら進めたいと思います。
○中村会長
　櫻井課長、所管課との情報共有をよろしくお願いします。
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　子育て世代の件に関連しての意見、質問です。現在、私は３１歳なので、同級生たちがどんどん結婚していきますが、そのターニングポイントで、２パターンに分かれています。一つは朝霞市外から朝霞市に引っ越して来るパターンです。世帯年収がおおよそ１，０００万円を超えているような世帯で、本町のマンションか、もしくは根岸台の新興住宅の一戸建てに入ってくる世帯です。もう一つはもともと朝霞市で生まれ育ったので、朝霞市で家を買って住みたいけれども、住宅の価格が高いので、坂戸市など、川越市より先の方や、例えば宇都宮市などに引っ越すパターンです。世帯年収によって朝霞市に生まれ育っても、朝霞市に家が買えないという状況が出てきてしまっていると思います。実際に資料３－１の朝霞市民意識調査の９ペー

ジを見ると、あなたは生まれたときまたは幼少のときから朝霞市にお住まいですかという質問に対して、はいと答えた方は１０％です。このことからみても、朝霞市の人口の入れ替わりが加速化しているのではないかと思います。これから先、お金を持って朝霞市に引っ越してきてくれる世帯をひたすら回転させて、人口規模を維持するのか、住み続けたいまちとしては本来、こちらの方がいいと思いますが、1 回住んだ方がこれからも定住できるような環境をつくるのか考える必要があります。市だけでは難しいと思いますが、どっちを目指すのかというのは、若い世代の確保に関する議論になるのかなと思うので、考えを伺いたいです。

もう一点考える必要があるのが、高齢化のピークはおそらく、国が想定しているピークと朝霞市のピークはずれてくるはずです。例えば地方都市では、高齢化のピークはちょうど今ぐらいなので、人口全体は減っても人口の構成比率が非常にバランスを取れていて、ダウンサイズはしても、予算配分が比較的均等に配分できると思います。朝霞市はおそらく１５年～２０年後に高齢化のピークが来ると思います。人口構成の高齢化のピークの状況をどのように踏まえていくか、それを財政にどう反映させていくかという考えも必要なのかなと思うので、どのような想定をされているがお伺いします。

〇中村会長

飯倉委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

〇事務局（櫻井課長）

まず一点目については、この第６次総合計画を策定するにあたって、どうしていくかというのは、すぐに決めるものではなく、基礎調査資料等や審議会委員の皆様の御意見を踏まえて、組み立てていくというのが現状です。また二点目の高齢化についても、これから議事で人口推計などがありますので、そういうところで基礎資料と、これからいただく皆様の御意見を踏まえて、今後の人口のビジョンについて、検討したいと考えています。以上です。

〇中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

飯倉委員、お願いします。

〇飯倉委員

高齢化の方ですが、３５ページの（５）ＤＸのところですが、ここの最後で、「一方歳出については高齢化に伴う扶助費の増や～」ということで、一応高齢化の問題についても触れられていると思うのですが、ここについては、公共施設の立て替えの時期に高齢化が著しくなるかということを踏まえて、財政調整基金などの積み立ての具合や、予算編成のあり方も考えていく必要があるのではないかと、読んでいて感じたところです。あと、１段落目、「デジタル技術の発展は著しく」というとこですが、この資料の主要統計指標の行財政のところに、あまりＤＸの指標がないと思うのですが、今国でもＤＸの推進については相当加速化している状況なので、ＤＸの進行具合や、朝霞市では何が足りていて、何が不足しているのか、可視化できた方が分かりやすいのではないかと思います。先ほども教育の分野においてＩＣＴの話も出ていましたが、ＤＸについては、否応なしに国から事業が降ってくる中で、遅れることが許されない、やって当然のような状況になっているので、そこの進捗状況についても総合計画の中にも盛り込んでいく必要があるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

〇中村会長

事務局から、回答をお願いします。

〇事務局（櫻井課長）

一点目については、資料３５ページの最後のところで、今飯倉委員に読み上げていただきましたが、これから基本構想を作るにあたっては、こういった行財政の部分についても、書き込むことになります。ただ、それはあくまでも総論的な部分としてなので、個別具体はこれから前期計画や、実施計画で進めていくものと考えています。

また二点目に言及いただいたＤＸの指標等については、御指摘のとおり、なかなか表現が難しくて入っていません。しかし、課題として取り上げることを踏まえますと、そういった指標が示せるかどうか、検討したいと思います。

〇中村会長

飯倉委員、よろしいですか。御指摘ありがとうございました。
平木委員、お願いします。
○平木委員
少し戻ってしまうのですが、先ほど子育て支援のことで、途切れのない支援という御意見がありました。例えば和光市などでは、「ネウボラ」という名称を使用して事業を展開し発信しています。これについては都内では例えば世田谷区や渋谷区、あるいは広島県福山市などでもそういったことを発信しているようです。「ネウボラ」とは、フィンランド語でアドバイスの場を意味していて、妊娠出産から子育て支援サービスまでが一体となったワンストップによる切れ目のないサポート体制ということです。こういったサービスの充実はもちろん大事ですが、そういったことを若い世代にアピールしていくということが、これから必要となってくるのではないかなと感じています。そういったことで、朝霞市に住みたいというアピールになると思いますのであわせて検討していただけたらなと思います。
○中村会長
平木委員、ありがとうございます。
櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
意識調査の結果から、課題として捉えて書き込む部分と、今後議論を重ねながら前期基本計画などの計画策定の中で反映していく部分を、所管課と協議しながら、しっかりと考えたいと思います。以上です。
○中村会長
櫻井課長、ありがとうございます。
村上委員、お願いします。
○村上委員
ＤＸの関係で、飯倉委員にお尋ねしたいのですが、今、朝霞市議会のペーパーレス化がどの程度進んでいるか、お教えいただけますか。
○中村会長
飯倉委員、お答えをお願いしてもよろしいですか。
○飯倉委員
全く進んでいないのが現状です。朝霞市ではタブレットの導入について、試験的な実施を来月予定しています。
ＤＸについては、朝霞市でもＤＸ推進計画を策定していて、昨年の市議会議員の改選でＤＸ分野に強い議員が複数入ったことと、私が所属している総務常任委員会では、デジタル推進の分野について、５月に先進地視察を予定しています。庁内の議論状況だと、まだデジタル化について、状況の把握ができていないというのを実感しているところです。まだ市としては、ＤＸに強い職員を育てていくことを考える方と、外部人材を登用して大胆に変えていかなければならないという方が伯仲しているという状況です。先日の市議会でも、ＤＸに関連する議論はあったのですが、庁内の一つの潮流としては、職員を育成してＤＸ化を進めていくという方向性を朝霞市としては取っている状況です。ここにいらっしゃる議員御二方がどんなお考えかわからないのですが、国としてはもうＤＸ推進というのは既定路線なので、そこに柔軟に対応していくというか、国のスピードにちゃんと合わせていけるかどうかの議論になってくるので、そこは執行部の皆さんとも適切に議論しながら進めていければと思っています。これはあくまで私個人の意見です。
○中村会長
飯倉委員、御回答ありがとうございます。このテーマについては別の機会に議論していただければと思います。
田辺委員、お願いします。
○田辺委員
今話している基礎調査の報告というのは、今の第５次後期基本計画のページでいうと１６０ページからの部分ですけれども、もともと第５次総合計画前期基本計画で最初に載っている部分ですよね。これが朝霞市の概況なので、この基礎調査というのはそこを書き込むためのもの

ではないかと私は思います。この基礎調査で抜けている部分は、前期基本計画の最後の参考資料です。例えば都市計画道路図、整備状況、主要道路網図、バス路線図、児童館や福祉施設、乳幼児施設、高齢者施設、もちろん公園や小中学校、スポーツ施設が全部地図で載っています。役所の人たちは知っていると思いますが、でもここにいる審議会委員の皆さんはそこを基礎的な資料として持っていないといけないと思います。例えば、先ほども公園が充足しているとおっしゃった方がいますが、地域によって全然偏在しているので、本町の周辺にはかなりありますが、地域によって全くない場所もあります。その地域性というのは、地図の中にどう配置されているかを見ないとわからないので、例えば基礎調査の中にも入れ込んでいただくというのが、私は必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局（櫻井課長）

確かに前期計画には、参考資料として掲載していまして、今、基礎調査の段階で示した方が良いという御意見があったのですが、事務局としてはもう少し先の段階でお示しする予定でした。今、御意見をいただきましたので、用意でき次第、参考資料として委員の皆様にお配りしたいと存じます。以上です。

○中村会長

いずれ提出するということですね。櫻井課長、ありがとうございます。

それでは議題２「基礎調査の結果について（報告）」は、以上とします。まだ御意見等がありましたら、改めて文書等で事務局へ提出してください。

（３）市民意識調査等の結果について（報告）

○中村会長

それでは、議題３「市民意識調査等の結果について（報告）」に移ります。まずは事務局から説明をお願いします。

○事務局（山本主任）

市民意識調査、青少年アンケート、子育て・定住に関する意識調査、転入・転出意識調査、小中学生の意見聴取の結果について、資料３－１から資料３－４までを用いて、順に報告させていただきます。

なお、これらの調査結果は速報版で、今後、居住地と年齢別のクロス集計等を行い、報告書としてまとめ、そちらについては後日、提供させていただきます。

それでは、資料３－１「朝霞市民意識調査及び青少年アンケート結果報告書（速報版）」を御覧ください。

まず、朝霞市民意識調査について、３ページに、調査概要を記載しています。

調査は、住民基本台帳から無作為で抽出した、市内在住で１８歳以上の３，０００人を対象として、令和５年１１月から１２月にかけて実施しました。有効回収数は９６５票、有効回収率は３２．２％でした。

次に、調査結果を一部御説明します。１５ページを御覧ください。朝霞市に住み続けたい理由を聞いたところ、「買い物など日常生活が便利」という回答が最も多く、次いで、「通勤・通学に便利」、「今の住まいに満足している」という結果でした。

１７ページを御覧ください。朝霞市外へ引っ越したい理由としては、「都会的な楽しさや魅力が少ない」という回答が最も多く、次いで「地域になじみや愛着がない」という結果でした。

４５ページを御覧ください。ここからは、市の全般的な取組について、「満足度」と「重要度」を調査した結果をまとめています。

満足度の調査結果としては、「廃棄物処理」、「上下水道整備」、「防災・消防」の３項目で満足の割合が５割を超えた一方で、「道路交通」、「土地利用」、「産業活性化」の３項目では不満の割合が２割を超える結果となりました。

５０ページを御覧ください。こちらでは、「満足度」と「重要度」の相関関係をマトリクス図で表しています。縦軸を重要度、横軸を満足度とし、点線で示しているそれぞれの平均値によ

り、タイプ１からタイプ４まで、４つの領域に区分しています。
本市の取組は、図の右上の領域、重要度、満足度ともに平均以上の項目で、現状維持を図るべきと考えられる項目の「タイプ２」、そして、図の左下の領域、重要度、満足度ともに平均以下の項目で、状況に応じて取り組むべきと考えられる項目の「タイプ３」に集中する傾向が見られます。
５７ページを御覧ください。未来に生かしていきたい朝霞市の強みを聞いたところ、「都心へのアクセスの良さ」が最も多く、ほかに「交通利便性」「武蔵野の自然」「彩夏祭などのイベント」が挙げられました。
続きまして、青少年アンケートの内容に移りますので、７５ページを御覧ください。
調査は、住民基本台帳から無作為で抽出した、市内在住で１２歳以上１８歳未満の１，０００人を対象として、市民意識調査と同じく、令和５年１１月から１２月にかけて実施しました。有効回収数は２７１票、有効回収率は２７．１％でした。
次に、調査結果を一部御説明します。８８ページを御覧ください。朝霞市が好きな理由の回答結果を経年比較したところ、「交通の便がよい」の割合がずっと増加しており、また、「住んでいる環境や街並みがよい」や、「治安がよく、まちが安全で安心である」の割合が、今回調査で大きく増加しています。
１１３ページを御覧ください。朝霞市の自慢や将来残したいものについて聞いたところ、彩夏祭などのイベントや、交通に便利なこと、自然や農産物といった回答がありました。
１１５ページでは、市長だったら何をしたいかを聞いたところ、遊び場や公園を増やすといった回答がありました。
続きまして、子育て・定住に関する意識調査についての内容となりますが、１点、資料の訂正がございます。資料３－２「朝霞市子育て・定住に関する意識調査結果報告書（速報版）」の１ページを御覧ください。ページ下部、「５．回収結果」の「③有効回収率」の内訳として、「紙回答：３７．０％、Ｗｅｂ回答：３７．２％」と記載がありますが、正しくは、「紙回答：３７．３％、Ｗｅｂ回答：２２．１％」となります。お詫びして、訂正いたします。申し訳ございません。
それでは、説明に入らせていただきます。１ページ、調査の概要ですが、調査は、市民意識調査の対象者がいる世帯を除き、市内在住で、５歳児のお子さんがいる全世帯、１，２０３人を対象に、令和５年１２月から令和６年１月にかけて実施しました。有効回収数は７１５票、有効回収率は５９．４％でした。
次に、調査結果を一部御説明します。１１ページを御覧ください。朝霞市で子どもを育てる中でよかった点を聞いたところ、「自然環境の豊かさ」という回答が一番多く、次いで「治安の良さ」という結果でした。
次の１２ページでは、今後改善すると良い点を聞き、「道路通行等の安全度」が一番多く、次いで「市の子育てに係る経済的支援の充実度」という回答結果になりました。
続きまして、転入・転出意識調査について御報告します。
資料３－３「朝霞市転入・転出意識調査結果報告書（速報版）」の１ページを御覧ください。この調査は、総合窓口課で転入または転出の手続きをする方を対象として、令和５年１２月から令和６年１月にかけて調査を実施しました。
なお、こちらの調査は、有効回収数が転入者１６票、転出者９票と、想定を下回る回収数であったことから、４月以降に追加調査を行い、票数を補完した上で、改めて集計を行う予定です。
現状の調査結果について、主なものを御説明します。７ページを御覧ください。朝霞市への転入のきっかけは「住宅事情」という回答が最も多く、次の８ページ、転入先を朝霞市に決めた理由は「通勤・通学に便利」という回答が最も多くありました。
１５ページを御覧ください。転出のきっかけは、「自分や家族の就職・転勤・転職」という回答が最も多い結果となりました。
最後に、小中学生の意見聴取について御報告します。資料３－４「小中学生の意見聴取に関する報告書（速報版）」の１ページを御覧ください。
調査は、市内小学校１０校の５年生及び市内中学校５校の２年生の合計２，３８５人を対象

として、令和６年１月に、ＧＩＧＡタブレットを通じたアンケートとして実施しました。有効回収数は１，３８１票、有効回収率は５７．９％でした。
　設問は２問で、１問目は「朝霞市の好きなところ、もっとこうなって欲しいと思うところ」、２問目は「大人になったあなたは、朝霞市でどんなふうに過ごしたいか」について、自由回答形式で聞くものでした。
　資料の２ページを御覧ください。回答結果について、頻度の高い単語や、文章内の重要度が高い単語を視覚的に捉えやすくする「ワードクラウド分析」を行いました。
　また、３ページでは、単語同士の結びつきの強さを可視化する「共起分析」を行いました。
　８ページを御覧ください。総括として、主な回答を挙げています。１問目の朝霞市の好きなところについては、「自然豊か」、「東京に近い」、「彩夏祭」、「イベントが多く楽しい」といった回答が見られました。
　２問目の大人になったらどう過ごしたいかについては、「家族や友人と買い物や食事をしたり、朝霞の森などの自然に親しみながら過ごしたい」という回答が見られました。
　各調査結果の報告は以上です。
○中村会長
　山本主任、御説明ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様から御意見等を頂戴したいと思います。
　酒井委員、お願いします。
○酒井委員
　今回いろいろなアンケートで地区区分を５区分にされていますが、地区割の考え方をお伺いしたいです。
　また、いろいろ分析されていますが、分析については５区分まとめて分析されていると見受けられたのですが、今後地区区分での分析も考えられていますか。
　３点目に、今回アンケートや、ワークショップ、市民懇談会を実施して市民の意識を調査されていますが、市民としては意見を言い、言った意見が全部反映されるとは思っていませんが、この意見が行政からどのような形、タイミングでフィードバックされるのかを期待しているのですが、いかがでしょうか。
○中村会長
　酒井委員、ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　地区割の考え方としては、これまでの総合計画としての考え方等を踏まえ、東上線と黒目川、新河岸川を境に５地区を考えています。
　また、地区ごとの集計等につきましては、こちらは速報版のため、単純集計で数値だけをまとめていますが、これから例えば年齢や性別といったことに加え、地区別というのは都市計画マスタープランと連携を図る上で必要だと思いますので、そういった集計をしていきたいと思います。
　またフィードバックについては、これから先、基本構想、前期基本計画と一連の流れで策定していきますので、どの時点でどう反映したというのは、なかなか全て示すのは難しい部分がありますが、せっかく回答いただいた方に、自分の意見がどう反映されたか知りたいと思いますので、全て回答するのは難しいと思いますが、適宜時期を見ながら、情報をホームページ等で、発信していきたいと考えています。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　一宮委員、お願いします。
○一宮委員
　私は感想なのですが、朝霞市に転入者が非常に増えているという部分については、一昨年あたりから東上線の急行が朝霞駅にも止まるようになりました。逆に快速急行は朝霞台の後は、一気に川越まで行きます。調査結果を見てみると、朝霞市以外に居住を検討した自治体は、和光市、次に志木市ということですが、朝霞市が通勤通学に非常に便利なのは、朝霞駅に急行が

止まるようになったのが理由なのかなと思いました。人口が増えているのは、朝霞市は、戸建てが多く、マンションが少ないと思います。逆に志木市はマンションが増えて、小中学校が足りないというほどで、孫が志木市にいますが、来年は小学生が増えて、学区が変わりそうな状態が続いています。そういう違いがあるのかなと、資料を見て感じました。
○中村会長
　一宮委員、ありがとうございます。感想ということですが、事務局から、何かコメントがありますか。
○事務局（櫻井課長）
　東上線の停車状況を踏まえた部分などについては、これから都市計画マスタープランとも連携を図っていきますので、こういった情報を共有しながら、計画等に生かしていけたらと考えています。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　資料３－２の２１ページのところです。問１６の地域との繋がりのところですが、子どもを通じたつながりが８４．８％ということで圧倒的に多いです。お子さんがいることによって地域との交流があると思います。その上で考えなければいけないのが、子育てが終わった後に、そういった方々がどうやって地域と関わりを持っていくか、朝霞市に住み続けるかということだと思います。子どもがいなくなった後、５０代以降ぐらいの世代がどのように市に関わっていくかというところに関心を払っていただければと思います。
　また、質問内容について御提案ですが、資料３－２と資料３－３両方に関連するところですが、質問に年収がないと思います。就業体系については調査されていますが、世帯主の収入状況によって転出入が変わってくると思います。朝霞の特性上、センシティブな話になるかもしれませんが、世帯主の状況も踏まえると、どういった世帯収入の方が入ってきて、また市外に転出せざるを得ないかという傾向が出てくると思うので、可能であれば調査項目に入れてみてはいかがでしょうか。
○中村会長
　飯倉委員、ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　今回については、意識調査等は終わっていますが、いただいた意見は、今後どういった議論に参考とできるかというところも踏まえて、この先、実施する機会がありましたら、検討したいと思います。
○中村会長
　無記名のアンケート調査であっても、収入に関する調査項目はかなりセンシティブな内容となるので、十分注意を要します。とりわけ、自治体が実施する一般のアンケートの場合にはなお更慎重を期す必要があります。
　濵野係長、お願いします。
○事務局（まちづくり推進課濵野係長）
　今、アンケートの収入のお話がありましたが、総合計画での調査の中の基礎的な情報は、都市計画マスタープランの策定に反映できるように情報共有しています。都市計画マスタープランでは住まい方、今住んでいる場所が納得して住まわれているのか、転出するのであれば、もっと都会の方に行きたいのか、もう少し自然の豊かな方に行きたいのか、実家が朝霞だったから朝霞に住んでいるのか、そういったところの情報も収集するアンケートを、昨日発送しています。直接的な収入を把握するような情報ではないかもしれませんが、補足できるような情報を今収集していますので、こちらについても総合計画に情報共有していきたいと思います。
○中村会長
　濵野係長、ありがとうございました。
　飯倉委員、お願いします。

○飯倉委員
　ありがとうございます。記憶だと子ども未来課が実施した子育て状況のアンケートで、年収について、深く調査をしていると思うので、クロス分析等できるものであれば、総合計画、都市計画以外にも様々な計画が進んでいると思うので、活用できるデータは相互にやりとりして、いいものにブラッシュアップしていただければと思います。
○中村会長
　飯倉委員、ありがとうございます。
　渡邉委員、お願いします。
○渡邉委員
　子育て・定住意識調査の中で、お母さんがほとんど回答していて、子育ては女の仕事になっているという社会的通念が出ているアンケートの結果だと思います。私もそういうことにあまり関わらないで来ているのですが、実際にこれから朝霞市として子育て支援をするにあたって、男性の参画、ジェンダーギャップの解消などを、この計画の中にどうやって盛り込んでいくのでしょうか。最初受け取る母子手帳は、名前に母と子しか入っていませんが、実際お母さんだけでは子どもはできないので、そこから変えていかないと、ともに育てるという観点が育たないと思います。子育てに関して、保育施設等の増強へのプッシュも男性からは遅くなっていて、お母さんからはすごくリクエストされますが、男性からはほとんどない状況です。ともに育てるという意識を社会的に包括して持っていないと変わっていかないと思います。今の時代は、子どもを安心して育てる環境という意識を、両性が持つ必要があります。また、様々な養子縁組の形の仕組みなど、包括的に子どもを安心して育てる仕組みをどうやって作っていくかというのも必要ではないかと思うので、うまく盛り込めるといいと思います。
○中村会長
　渡邉委員、御意見ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　御意見ありがとうございます。現段階は総合計画の基本構想という大枠で捉える部分ですので、今いただいた意見の生かせるところは生かしていくとともに、個別具体については、この先、所管課の方に下ろしていきますので、前期計画など、そういったところで参考に、検討していけたらと思っています。
○中村会長
　今後は、とても大事な視点です。櫻井課長、よろしくお願いします。
　星野委員、お願いします。
○星野委員
　資料３－１の５０ページです。満足度・重要度について、課題の重要性とか力を入れるべきことを、見えやすい形でプロットを作ってくださっていて、大変ありがたいことです。ただ象限を分ける際の破線をそれぞれの平均値でとっていらっしゃるということで、破線で分けると、線より上のタイプ１は力を入れるべきですが、破線の位置がずれることで捉え方が大きく変わると思います。必ずしもそうではないかもしれませんが、この平均値で区切られたというのは、何か意図があるのか、もう少し政策的に平均値ではなく本来持っていきたい値に対するという考え方もできるのではないかと疑問に感じたのですが、平均値を取られたことについて、理由や意図などをお伺いしたいです。
○中村会長
　星野委員、ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　平均点はあくまでもこの報告書の集計ということで示していますので、委員の御意見にもありましたが、平均より上だから重要として取り組むということではなく、平均よりも下だから重要ではないというわけでありませんので、一つの資料として、これから計画をつくっていく上で、参考とするという認識をいただければと思います。以上です。
○中村会長

議題３については、以上とします。もしまだ御意見のある方がおいででしたら、後日事務局まで提出していただければと思います。よろしくお願いします。

（４）市民ワークショップの意見について（報告）
○中村会長
それでは、次に議題４「市民ワークショップの意見について（報告）」です。事務局から説明をお願いします。
○事務局（山本主任）
次に、市民ワークショップの結果について、資料４をもとに説明させていただきます。１ページを御覧ください。
概要としては、１月２０日に、朝霞市民会館で市民ワークショップを開催し、朝霞市のよいと思うところや改善が必要と思うところ、未来の朝霞市がどんなまちであったらよいかなどについて、市民と意見交換を行いました。
当日は、朝霞市在住・在勤等市に関心のある方２８人と市職員１６人が９つのテーブルに分かれ、グループワークにより、様々な意見を出し合い、最後に発表を行いました。
この速報版では、グループごとの話し合いの内容をまとめ、総括として、各グループで目立った意見を挙げています。
３１ページを御覧ください。具体的な意見としては、朝霞市の未来として、多様な交流やコミュニティ、多様な遊び場、自然との共存、買い物や食事ができる場の充実などが挙げられております。
交通利便性、自然の豊かさ、イベントに関する評価が高いことから、これらの内容を資料６の朝霞市が目指すべき方向性の資料に反映しております。
市民ワークショップの結果概要については以上です。
○中村会長
山本主任、御説明ありがとうございます。市民ワークショップで出された意見について、委員の皆様から、何か御意見等はありますか。
酒井委員、お願いします。
○酒井委員
市民ワークショップに参加させていただきました。今日のようにいつも行政サイドと向かい合う機会の方が多いのですが、このときは同じグループに市の職員の女性の方も入っていただいて、同じ市民なのだな、同じ悩みを持っているのだなと、非常に楽しく参加させていただきました。楽しいワークショップでした。ありがとうございます。
○中村会長
酒井委員、ありがとうございます。
飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
私もこちらに伺ったのですが、参加された方々の年代を伺います。一番若い方、一番年配の方は何歳だったか、あとは男女比や平均年齢もわかればお願いします。
○中村会長
飯倉委員、御質問ありがとうございます。
事務局から、お答えください。
○事務局（福田係長）
まず男女比、それから年齢等については記録していません。ただ、懇談会の端々で伺った話ですと、一番若い方では大学生の方が参加されていて、年齢はわかりませんが、年配の方もいらっしゃいました。女性については子育て中の方もいらっしゃったり、大学生の方は男性の方がいらっしゃったり、男女、年齢、幅広く参加されていた印象です。
○中村会長
福田係長、ありがとうございます。
飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員

私も状況を見ていたのですが、内容としては良くて、先ほどからおっしゃっているように、職員の方と直接話したり、市民の方と話せるのは非常にいいかなと思いました。先ほど櫻井課長がお話しした通り、参加率はまだ課題が残ったと思います。

今後こういったワークショップを開催するときの参加率の向上と、あとは例えばタブレットを使っている小中学生に、学校の総合学習の時間で、協力していただいて、能動的に資料を集めていく、また、次回は職員の方が行って直接聞いてくるとか、そういったプッシュ型のアンケートの取り方をした方が、若い方の声がとれるのかなと思います。何か検討されていることがあれば伺いたいです。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

小中学生のアンケートについて、先ほど回答率は５０％ということをお伝えしましたが、これから先、子どもの意見を聞くというところでは、小中学校のイベント等に行って、直接お伺いするといった聞き取りを重視していきたいと考えています。もちろん、タブレット等の活用についても必要に応じて行っていきます。以上です。

○中村会長

飯倉委員、お願いします。

○飯倉委員

朝霞市の在住率はそこまで高くないですが、朝霞市内だと朝霞高校や朝霞西高校もあります。３年間ですが彼らも日常の大半の時間を朝霞市内で過ごすので、県とも協力して、意見聴取の場も設けたらいかがでしょうか。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局（櫻井課長）

今後の予定としましては、小中学生以外の高校生や大学生から意見を聞こうと考えています。来年から東洋大学も移転してきますので、大学生は朝霞に住まうよりも通う方が多いと思いますが、今委員がおっしゃったように、朝霞市に縁があるということで、意見を聞くことができればと考えています。以上です。

○中村会長

飯倉委員、櫻井課長、ありがとうございました。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

予定を見ると、次回の第４回審議会で分野別市民懇談会の結果概要と書いてありますが、分野別市民懇談会は２月１７日、１８日に５回開催していますよね。本来この場で出していただくのが筋ではないかと思います。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局（櫻井課長）

事務局としても本来この場で、結果を出したかったのですが、開催が２月の中下旬ということで、こちらの都合で申し訳ございませんが御用意できなかったので、スケジュール上は、次回と書いていますが、早めに対応したいと思いますので、よろしくお願いします。

○中村会長

田辺委員、よろいしいですか。櫻井課長、ありがとうございました。

市民ワークショップの意見についてはこれで終わりとします。

（５）将来人口推計について

○中村会長

ここから、議題５「将来人口推計について」の検討に移りたいと思います。最初に事務局から説明をお願いします。

○事務局（福田係長）

総合計画策定に向けた人口推計について、資料５をもとに説明させていただきます。
資料の２ページ、「目次」を御覧ください。本資料は、大きく４つに分かれて構成されています。１として、人口推計の目的と論点。２として、現在の人口の動向。３として、国の推計結果の検証。４として、将来人口の推計を行っています。
３ページを御覧ください。（１）人口推計の目的は、第６次総合計画の策定にあたり、基本構想に掲げる将来人口の見通しを検討し、それを踏まえた基本計画の策定に繋げていくことです。
（２）人口推計の論点について、下の枠囲みを御覧ください。本市の人口がどのような傾向で推移するのか、出生や転出入の傾向をどのように捉えるかが論点となります。
４ページを御覧ください。本市の人口の動向について簡単に説明します。本市の人口は、４ページのグラフのとおり、一貫して増加しておりますが、直近の２年をみると鈍化傾向にあります。
５ページは、年齢を３区分にわけた人口の推移で、一番上の線が生産年齢人口、真ん中の△の線が老年人口、一番下の○の線が年少人口です。大きな変化はないものの、少子高齢化が緩やかに進行していることが見てとれます。
６ページは、自然動態の推移です。これまでは、出生者数が死亡者数を上回る自然増の状況でしたが、近年は、均衡しつつあり、出生者数が死亡者数を下回る「人口の自然減」の局面に突入しようとしていると考えられます。
７ページは、合計特殊出生率の推移です。平成２７年をピークとして、国・県と同様、本市の出生率も低下しており、今後の少子化が想定されます。
８ページは、母の年齢５歳階級別出生率を、この１０年間で合計特殊出生率が最も高かった平成２７年と比較したものです。特に２５～３９歳における出生率が低下しています。
次の９ページは、社会動態の推移です。本市は一貫して、転入が転出を上回る転入超過の状況ではありますが、近年は転入者数と転出者数が均衡しつつあり、転入者数が転出者数を下回る「人口の社会減」への突入が懸念されます。
１０ページは、９ページの転出入の状況を年齢別に示すグラフです。２０１５年から２０２０年の５年間を見ると、転入超過のピークとなる世代は、２０代前半から後半の世代となっています。
１１ページ、１２ページは、国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠して行った本市の人口推計です。準拠とした理由は、国では推計の基準人口として国勢調査人口を基準にしていますが、本市の場合、国勢調査人口が住民基本台帳人口を下回る傾向にあることから、住民基本台帳人口を基準人口として推計しました。
１２ページ下段の（３）を御覧ください。　国の推計手法に準拠した結果ですが、本市の令和６年１月の人口が令和７年の推計値を上回るという状況になっております。　そこで、市として独自に推計を行う必要があると考え、１３ページから改めて本市の将来人口推計を行いました。
１３ページの人口推計における条件設定についてです。まず出生については、過去５年の本市の平均（出生率１．３５）をそのまま維持した場合を出生中位とし、それより出生率が向上した場合と、低下した場合の３パターンとしました。
１４ページでは、移動について、過去５年の本市の転入超過の状況をそのまま維持した場合を移動高位とし、緩やかに均衡に向かう移動中位と、比較的早期に均衡へ向かう移動低位の３パターンとしました。
１５ページを御覧ください。過去５年間の傾向を維持して推移した場合をベースとして、国が実施した推計などを参考に推計したものがこちらのベース推計です。これを出生中位、移動高位と定義しています。
１６ページの推計結果を御覧ください。ベース推計では、２０６０年が人口のピークとなり、その後減少に転じます。高齢化の程度は比較的低く、２０７０年でも高齢者は３人に１人未満となります。
１７ページの（２）から３１ページの（９）まで、この出生と移動がどう変化するかを掛け合わせて推計しています。

２１ページを御覧ください。こちらは、出生中位と移動中位の組み合わせで、出生率は現状を維持したまま、社会移動については、今の転入超過の状況から緩やかに均衡に向かう場合の推計結果です。

２２ページを御覧ください。２０４５年に人口がピークを迎え、その後減少に転じます。また、高齢化の程度がベース推計の数値よりも高いと見込んでいます。

３３ページを御覧ください。人口推計結果を総括し、本市の第６次総合計画を策定するにあたって、人口推計をどう想定するか検討した内容をまとめています。

①出生については、全国で合計特殊出生率が低下する中、現在のままでは低下していく合計特殊出生率を維持するという出生中位という考えに立つのが妥当と考えました。

②移動については、国全体の人口減少や、本市の人口増加に影響している東京都が２０３０年をピークに減少に転じると推計されていることを踏まえ、本市の転出入も緩やかに均衡に向う移動中位という考えに立つのが妥当と考えました。

これらの結果を踏まえ、③の総括として、出生中位と移動中位の組み合わせを軸として検討したいと考えています。この会議においては、この推計で進めるか、または他の組み合わせが良いのではないかなど、皆様の御意見をいただければと存じます。

○中村会長

福田係長、御説明ありがとうございました。

ここで結論を出すのはやや難しいと思いますので、少し時間をとって考えていただくとして、事務局としては、出生率は緩やかに減少し、社会移動についても今後緩やかに減少に転じていくと想定しているようです。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

この推計の仕方はそれでいいとして、先ほども出ていたのですが、丁番ごとに推計を出していただかないと、地域によって三原や朝志ヶ丘、内間木の人口は減っていると思います。本町や岡、あるいは膝折だと増えていると思いますし、地域によってずいぶん落差があるので、そこをもう少し細かく推計していただかないと、全体としての推計はわかるのですが、急速に減っていく場所があるのではないのかと思うので、その点はどうお考えですか。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。今後、検討していく中で、必要となってくる視点かと思います。

櫻井課長、お願いします。

○事務局（櫻井課長）

今、支援いただいているコンサルタント業者と話したのですが、ある程度推計の方向性が決まれば、その方向性で地域ごとの推移は出せそうだということです。９種の推計結果を全部出すのは難しそうですので、適宜出せる時期になったら資料として、皆さんにお示ししたいと考えています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。早急に全パターンで出すのは難しいでしょう。ただ徐々に全体像が見えてくる中で、地域別の状況もわかってきますので、そのときになったら出していただけるのではないかと思います。

原田委員、お願いします。

○原田委員

過去１０年ぐらい、社会増減を見てみたのですが、結構無難に落ち着いているかなと思います。ただ、今のトレンドだけではなくて、おそらく２０年後、３０年後は人口が減少するので、多分都心回帰の傾向が強まると思います。その傾向を見ると、この推計で行くのが妥当ではないかと思います。

○中村会長

原田委員、ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

まずグラフの作り方ですが、４ページ、棒グラフの縦軸はゼロから始めないと、ミスリードしてしまうので、注意した方がいいと思います。
それと冒頭では、東京の人口が減ると言っています。朝霞市内だけの人口推計をしていたら、状況を見誤るので、日本全体、首都圏、東上線沿線や周辺都市などの朝霞市の経済圏・行動圏の人口が今後どうなるかを冒頭に入れておくのがいいと思います。
どの推計を採用するかですが、ベースは出生中位・移動中位あるいは移動低位ではないかと思います。これはこのままいったらという話で、政策的に、例えば結婚出産育児の支援をこれだけ強化すると、出生率が今の１．２～１．３を１．４～１．５に上げることができるといったように、政策によって出生率を上げることができると考えるといいと思います。資料６に、朝霞市の強みとして出生率が比較的高いと書いてありますが、全国でも低い埼玉県の平均と比べて高いというのは、大きな間違いで、全国的に見ても低いですよね。出生率１．２３でいいとミスリードしてしまうといけないので、これは人口維持するのには全然足りない数字で、早晩これを２．０７に持ってかないと、全ての地域の人口が減るという危機意識を持っていただきたいと思います。
人口戦略会議が公表した「人口ビジョン２１００」では、それも２０６０年までに出生率を２．０７にしないと、日本の人口が安定しないというシミュレーションを出しています。これらの資料も参考にして、もう少し人口減少に対して危機意識を持っていただきたいと思います。
○中村会長
村上委員、御指摘ありがとうございます。
櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
今お二方から意見いただきありがとうございます。今回総合戦略と合わせて総合計画を作っていますので、まだ先々はわかりませんが、第６次総合計画と前期基本計画の策定を進めるにあたっては、こちらの資料を積み上げて考えていきたいと思っています。また、御意見がありました、東上線沿線や、全国の資料も参考にした上で、組み立ての流れを検討していきたいと思います。
○中村会長
櫻井課長、ありがとうございます。
飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
この推計ですが、推計にたられば を出すのは恐縮ですが、一番怖いと思うのは首都直下型地震等が起こって、東京都は経済的なダメージを受けることが、向こう３０年に想定されるとなると、東京中心の考え方がなくなる可能性もあると思います。これを推計の中に反映するのは難しいというのは重々承知で聞いていただきたいのですが、東京に来るというインセンティブが変わってきつつある状況を踏まえて物事を考えなければいけないと思います。移動が低位になる可能性もあり、かつ出生についてもコロナ禍の影響で想定しているより、かなり速いスピードで出生率が減っていることを考えると、先ほど村上委員がおっしゃった通り、比較的厳しめのシナリオは描いておいた方がいいのかなと思います。出生率の低い埼玉県の中で高いというのは矛盾している話なので、甘めの想定で、やっぱり駄目でしたとなると、もろもろの計画に狂いが生じてくると思うので、想定の中では厳しくした方がいいのかなと思います。
○中村会長
飯倉委員、御意見ありがとうございます。
櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
御意見ありがとうございます。出生率が低下していく中で、市が政策を打ってそれを維持し、上げていきたいという思いもありますが、今意見がありました通り、今後は下がっていくということを見据えた考え方も必要だと思いますので、いただいた意見等を参考にして、最終的にどちらにするかを考えていきたいと思います。以上です。
○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。これは次の議題の今後目指すべき方向性に繋がる話ですね。議題５「将来人口推計について」は、ここで一旦終わりとします。朝霞市の将来人口推計について、他に御意見のある方は、事務局へ提出をお願いします。

（６）朝霞市が目指すべき方向性について
○中村会長
最後に、議題６「朝霞市が目指すべき方向性について」の検討に入ります。まずは事務局から、説明をお願いします。
○事務局（福田係長）
資料６－１を御覧ください。
現行の第５次朝霞市総合計画の基本構想では、将来像【ビジョン】を『私が暮らしつづけたいまち　朝霞』とし、将来像の基本概念【コンセプト】を『安全・安心なまち』『子育てがしやすいまち』『つながりのある元気なまち』『自然・環境に恵まれたまち』としています。
事務局では、この【ビジョン】や【コンセプト】に相当するような事柄を、第６次朝霞市総合計画の基本構想に置きたいと考えています。
本日は、【ビジョン】や【コンセプト】に相当するような事柄、『朝霞市が目指すべき方向性』として、本市の将来像やこれからの基本的な方向性を、委員の皆様に御議論いただければと考えています。
『朝霞市が目指すべき方向性』について、御議論いただくために、作成したものが資料６です。
まず、資料６－１には、これまでの調査からわかったこと等の概要を記しています。左から反時計回りに、基礎調査、人口推計、市民ワークショップ、市民等意識調査、それぞれの調査結果のポイントを書いています。
次に、資料６－２ですが、円の左側には、資料６－１に示した調査結果から導かれる、本市の強みである好ましい点、今後も活かしたい点などを整理しています。本市の弱みである好ましくない点、今後改善したい点などが円の右側です。このように整理するとともに、その内容から抽出した「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」を、中央の円に整理しました。
ここでいう「キーワード」とは、朝霞市が目指すべき方向性の『要素』となるもので、現行計画では、暮らし、安全・安心、子育て、つながり、元気、自然、環境といった言葉が、それにあたります。
委員の皆様には、資料の真ん中、「キーワード」を特に御覧いただき、御議論をいただければと思います。もっとこういう要素があるのでは、という追加の御提案があれば頂ければと存じます。
今後、これらの「キーワード」を考慮しながら将来像などの案を事務局において作成し、次回審議会において、皆様に御議論いただくことになります。
資料６－１を御覧ください。左上の基礎調査から、それぞれの調査結果のポイントと、そこから浮かび上がるキーワードを簡単に挙げていきます。
基礎調査では、外部環境としての８つの時代潮流を整理し、統計調査から本市の内部環境を概観しました。内部環境の下線を付けた箇所ですが、例えば本市は自然増・社会増であるが、増加幅は縮小傾向であること、２５～３９歳の有配偶率が高いこと、合計特殊出生率については先ほどの御意見を参考に表記を検討します。また、自治会加入率が低く、かつ、一貫して低下傾向といったことを整理しています。
そして、右の課題の整理では、（１）～（５）を挙げています。
なお、この資料６－１に共通しますが、下線を付けた内容は、次に説明します資料６－２において、強み、あるいは弱み、それから朝霞市が目指すべき方向性のキーワードとの関連が強い内容ですので、そのように御覧ください。
次に左下の人口推計では、朝霞市人口の動向として、本市は一貫して人口増加にあり、自然増だが、自然減への突入が近く、近年は転出入均衡に近い、といったことを整理し、人口シミュレーションを実施しました。
次に、右下の市民ワークショップでは、《朝霞市のよいところ》として、都心に近く、交通の

便がよい、公園が多い、身近な緑がある、などの御意見があります。
《朝霞市の改善が必要なところ》では、道幅が狭く安心して歩けない、地域との関係性が希薄、といった御意見がありました。
《未来の朝霞のひと》のありたい姿としては、地域の支え合いや交流がある、子どもや高齢者、外国人など誰もが住みやすい、《未来の朝霞のまち》のありたい姿としては、交通網の充実、歩きやすい道が増える、《未来の朝霞にぎわい》のありたい姿としては、買い物や食事ができる場の充実、多様なイベント、市民が祭りやイベントの運営を担うといったことを整理しています。
最後に、右上の市民等意識調査です。市民意識調査では、将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」が最も多く、未来に生かしたい強みは「都心への利便性」が最も多く、他に「武蔵野の自然」などがありました。
青少年アンケートでは、今後のまちづくりの方向性は「安全・安心」が最も多く、「子育て・教育」「買い物等を楽しめる」といった意見が多くありました。
子育て・定住調査では、朝霞市での子育てでよかった点は「自然の豊かさ」、朝霞市での子育ての改善点は「道路通行の安全」が多く上がりました。
転入・転出意識調査では、転入の理由は、「通勤・通学に便利」「住宅環境」、転出の理由は、「就職・転勤・転職」が多く上がりました。
小中学生の意見聴取からは、自然豊か、東京に近い、イベントが多く楽しいところが好きといった御意見があり、大人になったら、家族や友人と買い物や食事、公園で遊ぶ、自然と触れ合うなどして過ごしたいといった御意見がありました。
次に、資料６－２を御覧ください。左側の本市の強みとして、人口の動向については、人口減少社会にあって、人口の自然増・社会増を維持している、高齢化は緩やかであって人口構造が最も若い都市の一つで子どもと子育て世代が多い、まちの性格や環境については、都心への交通利便性が高く、通勤・通学に便利である、市民の生活や文化については、健康寿命が長い、行財政については、財政力指数等多くの指標で他市を上回り、財政状況は比較的良好、といったことが挙げられます。
次に、右側の本市の弱みについて、強みと同じ項目で整理していくと、人口の動向については、まもなく自然減の局面に突入する、合計特殊出生率は高いといっても１．２５かつ低下傾向、今後の高齢化も予測され対応が必要である、まちの性格や環境については、道幅が狭い道路の改善や地域内公共交通機関の維持が必要である、都市の個性や魅力の磨き上げが必要でないか、市民の生活や文化については、医療提供基盤（医師数・病床数）はやや弱い、地域コミュニティが希薄で、自治会加入率が低い、行財政については、経常収支比率が高く、今後も財政の健全運営のための努力が必要、といったことが挙げられます。
ここまで御説明した本市の強み、弱みから抽出、整理したものが、中央の円に記した、「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」です。上から順に、人口の増加（及び可能な限りの維持)、バランスの良い人口構成の維持、子どもを生み育てやすい環境、教育・学習環境・移住・定住の促進、住み続けたい魅力的な環境、個性、健康で長生き、地域での多様なつながり、まちの文化・買い物の楽しみ、まちの賑わい、居心地の良い空間・交通利便性、移動の手段の豊富さ、歩きやすい道・都市と豊かな自然の調和、安全・安心、快適、このようなことが、本市の将来像やこれからの基本的な方向性を考えるうえでのキーワードになってくるのではと考えます。
なお、この「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」は、調査結果から抽出した段階のもので、並び順や内容のレベル感、具体性について精査したものではないことを御理解いただきたいと思います。
ここまで御説明したとおり、ここでいう「キーワード」とは、朝霞市が目指すべき方向性の『要素』となるもので、現行計画でいえば、暮らしや、安全・安心、子育て、つながり、元気、自然、環境といった言葉です。
委員の皆様には、特にこの「キーワード」について、どれを強調すべきか、もっとこういう要素がある、といった御議論をいただければと思います。
事務局からの説明は以上です。

○中村会長
　福田係長、御説明ありがとうございました。これからの朝霞市が目指すべき方向性について、５年後、１０年後に、朝霞市はどういう方向を目指すべきか、市民からいただいた御意見や、審議会で委員の皆様からいただく御意見等を踏まえながら、これをブラッシュアップしていくことが求められます。委員の皆様、いかがでしょうか。
　酒井委員お願いします。
○酒井委員
　ありがとうございました。キーワードということで、朝霞はにんじんも有名なので、都市型農業というような、農業のキーワードがあるといいのかなと思いました。以上です。
○中村会長
　酒井委員、ありがとうございます。
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　資料６－２のところです。左側の下の合計特殊出生率が比較的高いというところは、検討されると思いますが、先ほども御意見があったとおり、ポジティブに捉えられる状況ではないと思うので、表現を変えていく必要があると思います。
　先ほどの酒井委員のお話にもありましたが、朝霞市の産業の特性が総合計画に、どれだけ親和性があるか分からないのですが、朝霞市としてどうお金を生み出していくかという視点、朝霞市としての経済状況は入れてもいいのかなと考えます。
　移住定住の促進と書いてありますが、定住促進は市のいろいろな事業の中で考えていると思いますが、朝霞市として移住の促進はしてきたのかという疑問があります。そもそも朝霞市は交通の利便性がいいので、環境の良さから恩恵が生じていた中で、移住がどれだけ促進されてきたかがわからないので、移住の促進というのはそもそもその考えがあったのか、疑問に感じました。
　また、課題の右のところですが、朝霞市はちょうどインフラの更新期を迎えていて、いろいろなところで話していますが、比較的更新が遅れています。小中学校についても、朝霞第二中学校、第二小学校も、私が通っていたときや、陶山委員が通っていた頃から変わっていないという状況です。これから先、建物の更新の必要性が出てくるので、別で計画がありますが、朝霞市全体の計画である総合計画で、市内のインフラについても付言していく必要があるかと思います。
　また、市民の生活や文化のところですが、地域コミュニティが希薄、自治会加入率は低く、低下傾向について、朝霞市に対する関心が市民全体的に低いところはあると思います。コミュニティだけの問題ではなく、例えばこういった審議会や、市民意識調査、ワークショップの参加率が低いという、朝霞市への関心の低さは、課題としなければならないのかなと思います。
○中村会長
　飯倉委員、御意見ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　この議題は、今回で終わりではなく、次回に続く内容です。ここで出た御意見を参考とさせていただくとともに、後で御説明しますが期間を設けますので、他の意見もございましたら御提出いただければ、そちらも参考にしてまた次回に示していたらと思っています。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　渡邉委員、お願いします。
○渡邉委員
　行政の自治ではなく、住民自治として自分たちが自治するという表現を総合計画にうまく載せられないかと思います。自治への意識が特に低下しているので、トップダウンでやることではないのですが、その方向性を盛り込む必要があるのかなと思います。自治会加入率が低いというような話ではなく、自分たちで何かしないと駄目だという部分は、例えば防災でも、市に備蓄をしてほしいと言いますが、実際に朝霞市の全住民をサポートできるだけの備蓄はできな

いので、個人が担わなければいけないという発想というのはいろいろな分野であると思います。ここにはサービスの方が重点になっていて、自治の部分が表現に出てこないので、少し解せないというか、それがないと、市としての位置づけが難しいと思います。
○中村会長
　渡邉委員、ありがとうございます。
　田辺委員、お願いします。
○田辺委員
　後の話にもなってくるのですが、総合計画策定方針の中では、３月に市民説明会となっていて、４月に現行の第５次総合計画の評価の取りまとめになっていますが、今日配布された策定の流れには、それがあまり入っていないようです。この目指すべき方向性というのは先ほど私が言ったものも含めて、検討資料となっているので、まだ変わると思うのですが、今の流れをどうするのですか。今年度中に全部作るという計画は、かなり無理があると思いますがいかがでしょうか。
○中村会長
　田辺委員、ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　策定方針の中でお示ししたスケジュールは、その時点で過去に総合計画を策定したときのスケジュール感を参考に落とし込んだものです。したがって、本日机上に配布してある多少掘り下げたスケジュールとは、少し違っていると認識いただけたらと思います。また、これからも適宜議論の進捗状況を踏まえて、スケジュールは協議し、調整していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　田辺委員、お願いします。
○田辺委員
　第５次総合計画の総括はしないのですか。
○中村会長
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　失礼しました。第５次総合計画の総括については、来年度に入りましたら、着手していきたいと考えています。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございます。
　住民自治のような概念も取り入れて、いくつか検討してもらいたいと思います。
○事務局（櫻井課長）
　失礼しました。住民自治については、市民参画について市も施策を実施していますので、いただいた御意見を参考に、検討していきたいと思います。以上です。
○中村会長
　飯倉委員、お願いします。
○飯倉委員
　資料の３－１の３１ページですが、平成１６年から令和５年までのまちづくりはどんな形でやるべきなのかという考え方についての設問で、あくまでも市民の意識を見ると、行政任せの状況ではなくて、市民の方も適切な形で参画していくというのが、市民意識としてはあるという傾向が出ているので、そこは入れてしかるべきものなのかなと思います。
　資料６－２に戻りますが、防災についての話が全く出てなくて、朝霞市は大きな災害に見舞われてこなかったと思うのですが、特に今、首都直下型地震が一番大きいと思うのですが、災害に備えなければいけない時期にきたと思います。そこについての話が、安全安心の中にくくられていて、例えば防災についての意識の向上などが全く入ってないので、総合計画の中で触れておく必要があると思います。いかがでしょうか。

○中村会長
　飯倉委員、ありがとうございます。
　櫻井課長、お願いします。
○事務局（櫻井課長）
　お答えします。当初から議論の中でも説明させていただきましたが、今こちらに出しているのはあくまでも今後の方向性、将来像としてのキーワードの部分です。これから基本構想を掘り下げて前期基本計画という流れになります。基本計画ではある程度個別具体の部分、例えば防災等についても書き込んでいくことになると考えています。現在の第５次総合計画についても、そのような構成になっていますので、第６次総合計画でも同様の建付けを考えています。そのため、今の時点では防災といったところまでは拾ってはいません。以上です。
○中村会長
　櫻井課長、ありがとうございました。
　現時点での方向性に関する全体像の中では、そこまでは触れていないという御回答でした。しかし、防災に関しての意識が決してないわけではなく、意識は持っているが、ここに表記していないということです。飯倉委員が御指摘のように、首都直下型地震もそうですが、異常気象でいつ市内の河川が氾濫するか分かりません。高い防災意識は市も持っているであろうし、我々市民もその意識はかなり強くなってきています。必要があれば、ここに書き込むことも有り得るかもしれません。
　他にどなたか、御意見はありますか。特に意見がないのであれば、大方御意見が出尽くしたものと判断して、議題６「朝霞市が目指すべき方向性について」は、以上で終わりとします。これは総合計画の策定で最も大事な視点です。御意見のある方は、引き続き事務局へ提出していただきたいと思います。

◎３　閉会
○中村会長
　本日の議事については、これをもって終了します。
　その他で、事務局から何かありますか。
○事務局（齊藤主幹）
　今後の流れについてお知らせします。
　本日の議事について、追加で御意見等がございましたら、期間が短く大変恐縮ですが、今週金曜日までに様式等は問いませんので、事務局まで御提出くだされば ありがたく存じます。
　また、本日御審議いただきました基礎調査および意識調査等については、皆様からいただいた御意見等を踏まえて修正し、さらに調査の分析等を加えた上で、完成版の報告書として皆様の元へお送りしたいと思います。
　なお、次回審議会については、開催日が決まり次第、改めて御連絡を差し上げますので、よろしくお願いします。以上です。
○中村会長
　事務局からのお知らせでした。ありがとうございます。
　他に委員の皆様から何かありますか。何もないようであれば、以上をもって第３回朝霞市総合計画審議会を閉会します。長時間お付き合いいただき、まことにありがとうございました。